

忘却曲線 鳥居美智子

boukyaku-kyokusen | Michiko Torii



中学生の頃、国語の先生にあこがれて
俳句らしきものを作りはじめて六十年。
ひとり言のような溜息のような句を作りつけて来ました。

就職してからも俳句の会に入り、
同じように学生時代から俳句に親しんでいた鳥居脩に出会い、
それから五十年、
俳句とおさむと美智子の三人旅を全うし、
現在は俳句と私の二人旅をゆっくり歩いております。

2006年7月7日 鳥居美智子

春

紅梅白梅水をへだてて割ぜりふ

まだ声のとどくと思ふしだれ梅

片栗の咲きしをけふの片便り

桜待つ胃に落すもの熱うして

エデンの東うたふ時計や烏雲に

彼岸会の泪を足しに来る雀

忘却曲線にはかに狂ふ竹の秋

夏

あぢさゐの八岐に脚濡らしゆく

攻防の坂の果や沙羅双樹

短夜を使ひ果して泳ぐ夢

尺蠖の五体投地や昼の月

おろおろとすまじき一日黒日傘

草笛を花笛に代へ子を捕るか

夜光虫誰がよ誰がよと宥めても

テネシーワルツ哀歌とおもふ籠枕

蟬しぐれまんだら堂をひた隠し

秋

服薬時報新益の夜も鳴れり

空蟬のそれぞれ十日物語

階上も階下も厄日鳩時計

遠国の匂ひと思ふ夕野分

ハニートースト秋風の港街

月佳けれ我が生涯の山月記

水見舞フランス麴と野の花と

名残の月遠出の杖をえらぶかな

冬

綿虫をとさどき放ち老いゆく樹

小啄木鳥けふいづこに宿る雪景色

雪搔いてたましひ通ふほどの径

水仙の辺を去りがての杖の跡

寒晴やひとり息子の静電気

三寒四温ひとりに馴れてゆくリズム

 **Tokyo Mnemosyne** 東京ムネモシュネ

Tokyo Mnemosyne **e-books**

<http://haikustock.com>

A4用紙に印刷して2つ折りにします。右端をホッチキス留めするとA5判の小句集に仕上がります。
個人で楽しむ範囲でのダウンロード、印刷以外の無断転載・コピー・流用は一切禁止します。